

第 5300 地区ガバナー・シルビア V ウイトロック氏 提供

2 月 22 日地区主催「クラブ研修リーダー・幹事研修会」が都城で 10:30～15:00 まで開催されました。今柳田幹事と一緒に参加いたしまして、一部は幹事報告にありましたので、講師・三木 PG より川平副委員長に別途提供された資料を、ご両人のご了解をいただき報告に変えて、上・下に分けて掲載する次第です。

ある作家は次のように記しています。

人は見かけで判断しないこと
本はカバーで判断しないこと
ボロボロの本でも
読めば新しい発見があるはず

私も祖母から「本はカバーで判断しないこと」と教えられました。その真意を理解したのは、ずっと前のある出来事がきっかけでした。

私が育ったのは、いわゆる「第三世界」と呼ばれる環境で、日常的に階級意識がはびこり、これが偏見の火種となっていました。私は肌の色がどちらかというと明るい黒人だったため、もっと色の濃い黒人に対してあからさまに向けられる“無価値な人々”という偏見とは縁がないと考えていました。黒人という人種の歴史に無知であった若い頃の私は、肌の色という表面的なことで人を判断していたのです。偏見の恐ろしい弊害は、自分自身が所属するグループでさえも、過小評価し、恐れ、時には嫌悪するように教育されてしまうことです。1940 年代の有名なミュージカル「南太平洋」では、ロジャースとハマースタインが「You've Got To Be Carefully Taught」という歌でそれを上手く表現しています。若いアメリカ人のケーブル中尉が、ポリネシア人の女性への恋心に戸惑い、次のように歌うシーンです。

人は教え込まれて嫌悪や恐れを持つ
それも何年も言い聞かされて
幼いときから耳に叩き込まれて
周到に教育されているんだ

手遅れになる前に教育を受けるんだ
6 歳か、7 歳か、8 歳になる前に

家族が嫌う人を自分も嫌うようになる
周到に教育されているんだ

子どもたちは幼稚園に通う前からいろいろなことを言い聞かされています。私が自分の心を省みるきっかけとなったのは、ある日、交通量の多いニューヨークの高速道路を走行中にガス欠になり、追い越し車線で車が止まってしまった時のことです。路肩がなく、その場で立ち往生してしまいました。

公衆電話を見つけて警察に電話し、助けを求めると、「1時間して誰も来なかったらまた電話するように」とのことでした。混乱したまま立ち尽くしていると、反対車線を走っていた車が私の近くで止まりました。顔を出した運転手は、頭にぼろぼろのバンダナを巻いた黒人の男性で、「お嬢さん、何かお困りかい？」と言うのです。

ガス欠について説明しながら、私は何とも言えない戸惑いを隠さずにはられません。その男性の外見は、避けるようにと私が言い聞かされてきたタイプだったからです。男性は、「ガソリンを持ってきてあげるよ」と言って去りましたが、彼が戻ってくるまでの10分間、さまざまな最悪のシナリオが私の頭をよぎりました。

戻ってきた男性は、ガソリンをタンクとキャブレターに注ぎ、車のエンジンをかけてくれました。私が手持ちの所持金3ドルを渡そうとすると、ガソリンにかかったのは29セントだけだからと言って、お金を受け取ろうともしませんでした。これは1960年代のことです。-続く-